巻 頭 言

初等中等教育における 情報教育に目を向けよう

副会長 雨宮真人



日本経済もやっと不況を脱しつつあるようである。しかし、長期的視野に立ったとき、BRICS の追い上げが激しく日本の将来は必ずしも楽観できない。今こそ問われるのは長期的な視野に立った産業・技術戦略である。資本が次第に蓄積しつつある今、1980年代のバブル経済失敗の轍を踏まないように、長期戦略に立った投資のあり方を考えなければならない。それには、他国を凌駕できるような高品質の製品を生み出す技術開発もさることながら、世界に先駆けて新価値を生み出すような基礎研究に意欲的に投資することである。

我々が担っている情報通信技術はこれからの社会・産業の基盤をなすものであり、この分野で世界を先導できる新技術を生み出していけるか否かが日本の運命を決するといっても過言ではない。このためには、その基礎研究・開発を積極的に進めることに加えて、国際戦略と人材育成にもっと力を注がなければならない。国際戦略については過去の歴史を振り返ってみて日本人の苦手とするところであるが、これからは明確なポリシーを持ち国際的リーダーシップと交渉のタクティクスを発揮できる人材が求められる。人材育成に関して、今日の日本があるのは明治政府の教育重視政策に預かるところが大きいと考える人は多いであろう。今後100年の計として、科学技術の素養と社会感覚・豊かな感性を持った社会人を育てること。同時に、新規な発想と独自性が発揮できる科学者・技術者(共に科学技術開発に携わる広い意味での研究者を含む)の育成が重要である。そのような優れた科学者・技術者を育てるには、興味を持った一つの得意分野を深めた上でその基礎に立って知見を広げていく"T形教育"が重要だと考えるが、最近の大学院教育ではこのT形教育があまり重視されなくなってきているように思える。

本学会も国際戦略と人材育成に積極的に取り組む必要がある。国際戦略については、現在本学会内に、特にアジアに目を向けて、国際戦略を推進するタスクフォースが作られ種々の施策が検討されているのでその施策に期待したい。

ここでは、人材育成に関して本学会の果たすべき役割について提案をしたいと思う。それは、少年少女を 視野に入れた科学技術教育とりわけ情報教育を積極的に支援していこうということである。長期的視野に立っ たとき、将来の日本を担う次世代の人材育成は何にも増して重要である。最近、子供たちの理科離れが進み、 情報関連学科をはじめ大学理工系への進学希望者が減少しつつある。特に情報通信関連の学問への魅力が薄 れつつあることは将来大きな禍根を残すのではないかと危惧される。

文部科学省は初等中等教育における情報教育の重要性を認識し、平成 15 年度に高等学校普通教科「情報」を必履修科目として導入した。しかし、高等学校における教育の実態は情報リテラシー教育に偏重し、情報の科学的理解についての教育が十分ではない。また、昨年問題となった高校未履修科目の一つともなっている。教育現場では情報教育に携わる先生の絶対数が少なく、教材作りをはじめ先生の負担がかなり大きいと聞いている。世間では情報を空気のような当たり前のものと考え、科学的にとらえることの重要性が十分理解されていないことにその原因がある。啓発活動を積極的に行っていく必要がある。

国立八大学情報系研究科長会議は、昨年6月に「情報教育に関する提言」を行い、情報教育の重要性を訴えた。提言の趣旨は次のとおりである。「"情報"という概念は今や日常生活の中で切り離せないものであり、情報は数学、国語(言語)、物理・化学・生物を横断する重要な基礎学問である。初等中等教育の段階から情報という概念の理解を深める教育をそれぞれの段階に応じて行うべきであり、大学教員と高校・中学の教員が連携して教育内容の充実とその教材作りを行う。また、産業界とも連携することが必要であり、関連する学会はその支援をしていく必要がある。」

本学会では、子供の科学教室など少年少女を対象とした教育支援活動を行っている。これを更に充実させて情報教育へ発展させ、高校大学連携教育の支援を行っていくことが新たな時代に向けた学会の役割であると考える。